

助成年度：平成9年度

[所属] 京都大学大学院 農学研究科

[役職] 教授

[氏名] 嘉田 良平 (他計4名)

[課題]

水田生態系における生物多様性の経済評価

[内容]

本研究の目的は、我が国の農村が有する生物多様性の価値を経済学的に明らかにし、それを定量的に評価した上で、その価値の維持増進を視野に入れた農業政策のあり方について提言を行うことである。ここで特に対象とする、「水田生態系」には、水田に加えて、畦畔、水路、ため池など周辺環境を含める、すなわち、人間の手が加えられた二次的自然環境すべてである。日本の動植物の特徴のひとつとして生活史の一部だけを水田周辺の水環境のなかですごすもののおおいことからその生態系の保全は生物学的にも重要視されている。

本研究によって得られた成果は次の通りである。まず、はじめに、水田農業における生物多様性についての生態学的知見を整理した。そこでは主に、水田農業が生物多様性を保全する役割を担うものであることの論理を、守山を中心に整理した。次に、嘉田・浅野・新保を参考にして、農業の公益的機能の分類を機能間の包含関係と各機能の分離可能性に注目して行い、公益的機能全体に対する生物多様性保全機能の位置づけを明確にすると共に、これまでの先行研究の結果が、生物多様性保全機能の評価にどの程度貢献するものであるかについて検討した。そして、兵庫県市川流域の農村環境の生物多様性の経済評価を行った。その際に、質問形式に新たな工夫を試みると共に、その質問形式から得られるデータの分析に有効な Kaplan・マイヤー推定量を用いた。結果としては、市川流域の農村環境の生物多様性の経済価値は、おおよそ年間世帯当たり 10,000 円から 20,000 円となり、この金額は遺贈価値や存在価値といった非使用価値としての評価額を多く含むものであることが明らかとなった。最後に、これらの価値評価を前提として、価値の維持増進を視野に入れた農業政策のあり方について提言を行った。